

NEWS

◆Kids' Voice -世界の子どもたちからのメッセージ- いよいよ出版

63カ国457人の子どもたちが描く 大人への未来へのメッセージ

子供地球基金創立20周年を記念して企画された本画集は、「Chapter1 旅／Chapter2 仲間／Chapter3 遊び／Chapter4 疑問／Chapter5 無題」の5つのキーワードで構成されています。12月上旬により全国の書店にて販売開始。子供地球基金ホームページでも受け付けております。(本品のお届けは2008年12月中旬を予定しています。)

発行: 美術出版社 企画・監修: 子供地球基金 アートディレクション: 岡本一宣(岡本一宣デザイン事務所) 序文: 千住博
版型: 225mm x 185mm, ソフトカバー 240頁(フルカラー) 価格: 2500円(税別)

Kids' Voice -世界の子どもたちからのメッセージ- 原画展も開催中

画集の出版を記念して、玉川高島屋S・C1階グランパティオにて、掲載された原画の一部をご紹介します。
(ホワイトエンジェルプロジェクト内)



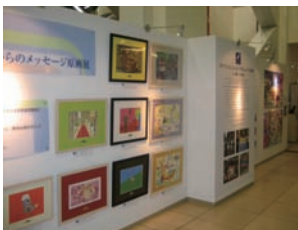
◆在日イタリア商工会議所主催チャリティガラ開催-収益を子供地球基金へ寄付-

在日イタリア商工会議所(ICCJ)主催、毎年恒例のガラディナー&コンサート2008が、去る11月20日、グラントハイアット東京にて開催されました。パーティーでは、都内のインターナショナルスクールなどの協力により集められた子どもたちのアート作品22点がオークションにかけられ、その収益金70,700円をチャリティーとして子供地球基金へ寄付していただきました。子どもと大人とが一緒になって行われた、すばらしいチャリティの夜となりました。ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。



◆玉川高島屋S・C ホワイトエンジェルプロジェクト 2008

今年で7年目を迎える「ホワイトエンジェルプロジェクト」は、玉川高島屋S・Cと子供地球基金がともに、「世界中の子どもたちに平和なクリスマス」というメッセージを発信していくプロジェクトです。ホワイトエンジェル チャリティギャラリーでは、世界の子どもたちの絵画展示にあわせ、活動の趣旨や昨年のチャリティ結果の報告をするともに募金箱を設置。クリスマスツリーにオーナメントを飾ってチャリティ募金に参加していただく企画もあります。そのほか、館内を彩るイルミネーションの他に様々なクリスマスイベントも開催されています。クリスマスまでの期間中、どうぞお立ち寄りくださいませ。



会期: 11/12(水)～12/25(木)

会場: 玉川高島屋S・C 本館1階グランパティオ 世田谷区玉川3-17-1

アクセス: 東急田園都市線/東急大井町線 「二子玉川駅」下車 西口(国道246号方面)徒歩2分

◆無印良品からチャリティ商品が続々登場!

10月より全国で発売中の「子どもの絵のマイバッグ」。色々な国の子どもたちの5種類の絵がマイバッグになり、通学やお買い物など様々な用途でご好評頂いております。

この子どもたちの絵が、今度はなんとかわいいパズルになりました。デザインは、マイバッグにもなった3種類。大きなピースは小さいお子様にも安心なうえ、かわいいデザインは大人の皆様への温かい癒しグッズにも是非おススメです。また寄付の出来るクリスマスギフトとして、バスグッズや、風合いが温かいフェルトのオーナメント、更には落ち綿Tシャツ(紳士用・婦人用)とチャリティグッズが続々登場します。これらの収益は全て、子供地球基金を通じ、世界中の子どもたちの支援活動に活用されます。

お近くの無印良品にて、KIDS EARTH FUNDのタグのついた商品をご自身へ、お世話になった方へ、いつもより更に心温まるクリスマスプレゼントにいかがですか。そして、無印良品 有楽町に続き、MUJI新宿で「子供地球基金展」が開催中。是非お立ち寄りください。



子どもの絵のパズル
税込 525 円

フェルトオーナメントセット
3個セット
(ツリー・くつ下・雪だるま)
大 税込 368 円
小 税込 263 円



◆チャリティオークション開催のご案内

12月14日、渋谷 Bunkamura Galleryにて、Augur Auctionによるチャリティ・オークションが開催されます。スペシャルゲストをオークションアにお迎えし、たくさんの素晴らしいアート作品の数々が出品予定。今回の売却予定作品は、オーガーオークションの出資者からのご厚意によるもので、この売上がすべて子供地球基金へのご寄付となります。皆様、お誘いあわせのうえ、是非ご参加ください。

《チャリティ・オークション開催概要》2008年12月14日(日) 16:45～ 場所: 渋谷Bunkamura Gallery 〒150-8507東京都渋谷区道玄坂2-24-1

・本編のオークションの前に行われます ・売却予定作品は、プレビュー会場にてご覧頂けます(2008年12月11日～13日 10時～19時、14日 10時～14時)
・売却予定作品は全て成行き扱いと致します ※成行き・・・落札開始価格がオークションアによってその場で設定されます
・出品、落札共に手数料はかかりません ・原則として、会場にて現金でのお支払いと引き換えにお持ち帰りいただきます http://www.augur.jp

◆平成19年度 総会開催のご報告

去る11月10日(月)子供地球基金事務局にて、平成19年度通常総会が開催され、以下の議案について全て承認されましたことをご報告致します。

第1号議案 平成19年度活動報告・収支決算 第2号議案 平成20年度活動計画・予算案

《平成19年度収支計算書(平成19年9月1日～平成20年8月31日)》

1.収入の部
会費収入／2,963,081 寄付金収入／72,044,634 その他収入／15,297 収入合計／75,023,012
2.支出の部
ホーム事業／30,038,086 展覧会事業／11,086,376 広報事業／6,055,691 支援イベント事業／12,475,035 運営管理費／16,261,978 支出合計／75,917,166

■ NEW MEMBER 新規にご入会いただいた方々です

【個人会員】 岩間崇雄 様 緒方頼子 様 木村洋一 様 酒井 紫 様 清水玲子 様 中間寛子 様 中谷文明 様
成瀬久美 様 延原 猛 様 三木正市 様 宮本佳和 様 森正晶子 様 山村 眞 様 他2名

【法人会員】 東京アート株式会社 TOKYO ART Co.,LTD 株式会社プロントコーポレーション 株式会社ライトオン Right-on

(2008年9月1日～2008年10月31日・五十音順)

子供地球基金 / KIDS EARTH FUND 〒150-0013 渋谷区恵比寿 3-25-2 TEL:03-5449-8161 / FAX:03-5449-3962
E-mail: info@kidsearthfund.jp / URL: http://www.kidsearthfund.jp/



KIDS EARTH Report

No.042 Winter 2008



ペガサス / Pegasus
コバー・クラスセ / Kober Klasse
ドイツ / Germany
男 / Boy

©子供地球基金/ KIDS EARTH FUND

KIDS EARTH HOME Project キッズ・アース・ホームプロジェクト

特集 第1号キッズ・アース・ホーム クロアチアの再建



新しいホームが完成したのはクロアチアの首都 ザグレブから車でおよそ2時間の山間の町、グボズド市。紛争から10年以上経過し、首都ザグレブやリゾート地ドゥブルブニクなど観光客が増える一方で、未だに70%を超える高い失業率が問題となっている地域です。1991年に独立を表明して以降、それまで連邦を構成していたユーゴスラヴィア軍との間にクロアチア紛争が激化、1995年の終結まで、この地域でもたくさんの被害者が出ました。

子供地球基金は、この紛争終結直後よりクロアチアに入り、現地NGOの協力を得て、支援活動が続けて参りました。紛争終結後、13年を経た現在、キッズ・アース・ホームにやってくる子どもたちには、直接的な戦争経験はありません。しかしながら、失業率の高さに起因した家庭内暴力や教育への無関心、ドラッグや煙草、アルコールの横行など子どもたちを取り囲む環境には問題が多く、また13年前に世界中から集まった支援の手は年々減少し、今では国外の団体はほとんど活動を行っていない状況です。娯楽施設もないこの地域では、キッズ・アース・ホームが、子どもたちが自由に立ち寄り、絵を描いたり、友達と遊べる貴重なスペースなのです。



9月6日、清々しい天候に恵まれる中、いよいよ新しいキッズ・アース・ホームがオープンしました。昨年より現地スタッフを中心に何軒もの候補地を視察し、小さく古い家屋付の土地の購入を決定。近隣に住むボランティアの方々や子どもたちの手で修復や整備を進めてきました。オープン直前には、リングやヘーゼルナッツなどの木が茂る広い庭に、子どもたちがたくさんのお花を植え、真っ白に塗りなおされた内側の壁には子どもたちが描いた作品と、作品交換を通して交流を続けている至誠学園の子どもたちが描いた作品が飾られました。

子どもたちの詩の朗読から始まったオープニングパーティーには、たくさんの子どもたちだけではなく、



グボズド市長やボランティアの方々までおよそ100人近くが集まりました。オープニングパーティーの為に、グボズド市はテーブルと椅子の貸し出しを協力、ボランティアの方からシチューやヤギのロースト、ケーキといったご馳走の差し入れ、更にはギター演奏まで始まり、集まった子どもたちは大喜び。準備から後片付けまで一生懸命頑張った子どもたちは、自分が色を塗ったドアや植えた花木を誇らしげに見せながら、「ここがわたしのうちなの」と、これからホームでやってみたいことを語ってくれました。

クロアチアの地と子どもたちの間に根付いたキッズ・アース・ホーム。今年、子供地球基金クロアチア支部も正式に立ち上げました。これからも子どもたちの心の拠り所となり、夢と希望となり、更に平和に、心豊かな国となる力となっていく手助けとなるために、支援活動を充実していけたらと思います。



ミマラ美術館「子どもたちの絵の展覧会」

クロアチアの首都ザグレブにあるミマラ美術館で、子どもたちの絵の展覧会を開催しました。子供地球基金20周年と、クロアチア支部設立、そしてキッズ・アース・ホーム クロアチアの再建を記念し、実現しました。ザグレブ市にあるたくさんの美術館の中でも最も古く、大きなミマラ美術館は、国賓の来訪の際にも必ず案内される、クロアチアが誇る施設です。

9月8日のオープニングセレモニーには、白川哲久 在クロアチア 日本国特命全権大使にもご列席頂くなか、ミマラ美術館長 トゥグミール・ルクシッチ氏、子供地球基金代表 鳥居晴美、クロアチア支部代表 マヤ・トゥルニスキらによる挨拶と、クロアチアに古くから伝わる吹奏楽器の演奏で幕を開きました。

格式高い荘厳な雰囲気美術館に、世界中の子どもたちによるタペストリー、日本の子どもたちや、インドの子どもたちによる大型作品、更に様々な国の子どもたちがそれぞれに描いた作品を展示。突然現れた明るい色調の展示作品の数々にたくさんの方が足を止めてくださっていました。

2週間の展覧会開催期間中、クロアチアの多くの方々に楽しんで頂き、子どもたちからのメッセージを届けることができました。



KIDS EARTH CAR Project キッズ・アース・カープロジェクト

慈恵医大 ～秋模様～



食欲の秋だね！

吸い込む空気も冷たくなり、木の葉も赤や黄色に色づき、秋の気配が日に日に色濃くなってきた10月、慈恵医大の子どもたちと「秋模様」をテーマに絵を描きました。

直前には、ボランティアの皆さんと一緒に「秋」をテーマにしたプレアートワークショップを開催。紅葉や栗やとんぼを色紙で作りました。

病院でのアートワークショップでは、子どもたちが、その紅葉や栗などを画用紙に貼り付け、さらにそれぞれの秋模様を絵の具で表現していました。優しい色の画用紙に表現したそれぞれの秋は、まるで外で実際に見ることができるようなものになりました。



秋はやっぱり落ち葉がきれいだな

宮城県立こども病院 ～自由に描こう！～

10月17日、KIDS EARTH CARは、東京・恵比寿から仙台市の宮城県立こども病院へと走りました。

病院では寄贈活動とともに、3病棟で同時にアートワークショップを行い、大勢の子どもたちと病院のボランティアの皆さんが参加しました。

初めて絵の具を手にした幼児の参加も多く、最初はキャンバスを目にし、最初は恐る恐る線や丸を描いていましたが、次第に緊張も解れ、大胆な色使いで絵を描き始めました。最初はなかなか笑顔も出なかったのですが、最後には「きゃっ、きゃっ」と楽しそうな声も聞こえてきて、大きな絵を描いていました。

子どもたちの作成した3つの作品は、院内で展示され、子どもたちの元気の源のひとつとなっているようです。



色鮮やかに描きました

二葉学園 ～ハロウィン～

10月25日、二葉学園での初めてのアートワークショップが行われました。テーマはハロウィン。まず始めに、子どもたちにハロウィンをテーマにした絵を紹介。知らない国の子どもと絵を通して触れ合いました。

次に、ターナー色彩㈱からご協賛いただいたキャンバスを、子どもたちは相談して大きさを決め、この上に、筆を使って絵を描き始めました。

ところが・・・参加した子どもたちは絵の具で表現することに楽しさを見出し、その瞬間に感じたものを、体中に絵の具をつけて全身でハロウィン表現していきました。出来上がった作品からは、子どもたちのエネルギーと限りない力強さが出来ました。

今後も子供地球基金は、国内においても、一人でも多くの子どもたちの笑顔につながる活動を精力的に行っていきたいと思います。



あれ？
テーマは何だったっけ？

手で描くのって、
とっても楽しい！

神奈川県立こども医療センター ～クリスマス～



クリスマスを描くのって楽しいなあ

少し気が早い？ですが、11月11日のアートワークショップでは、クリスマスをテーマにしたアートワークショップを実施しました。絵を描くことが大好きな子どもがクリスマスツリーを描き始めると、他の子どもたちも雪だるまやリースを描くなど、真っ白だったキャンバスはあっという間にクリスマスの絵で色鮮やかに埋められ、見るだけでもウキウキしてくる楽しい絵が出来上がりました。

子どもたちは、保育士や看護師に「ねえねえ、クリスマス会の時には、この絵を病棟に飾って欲しいな」とお願いをしていました。子どもたちの作品が、クリスマス会を盛り上げ、笑顔がどんどん広がっていくことでしょう。

アートワークショップ終了後に絵を別の部屋へと移動させる時、子どもたちは一時的な別れを惜しむかのように、いつまでも絵を目で追っていたのがとても印象的でした。



パーティーが今から楽しみ！

コラム DEAR KIDS, DEAR THE EARTH vol.22

子供地球基金 監事・税理士 清水一三氏

思えば二年半前に代表ご夫妻と出会う機会があり 私は初めて子供地球基金の支援活動を知りました。実は私の長男も十数年前の幼稚園児の時に、風邪をこじらせて小児リュウマチを患い、小学生の間、数年間、入院を繰り返し、冬は小児病院付属の養護学校へ通い、春から地元の小学校へと戻るとい生活が続きました。この病院はそんな子供ばかりの病院で、長い入院生活の子供やまた再発して戻ってくる子供も、おそろくどの子供達も家に帰りたくとも帰れず、思うように体が動かせないもどかしさ、また毎日大量の薬をいやが応でも飲まれて、不安とストレスに耐えながらもただ我慢して、病院生活を送っているのに違和感を感じておりました。その様な現実のなかで、ワークショップ活動を通して子供達が好きな絵を自由に描き、わずかも明日への希望が見えることで、どれほど子供達の気持ちが和らぎ、心の支えとなっている事でしょう。

また時々アジア系の観光地に行くことがあり、どこでも6、7歳ほどの子供達が物売りにすぐに集まって来ますが、皆キラキラした真剣な眼差しで生きているのを眼にして、元々裕福さを全く知らず貧しい生活しか知らない（それが当たり前）環境）から、貧困家庭の子供は不幸で可愛そうと勝手な思い込みをしているのではないかと、思う事さえあります。しかし、その親達は子供の将来に不安と悩みを抱えながら、十分な教育も与える事が叶わず、貧困生活から抜け出せないまま、明日の見えない辛い思いをしていることも現実です。そこに、決して親を選ぶ権利が無く、その生い立ちを仕方なく受入れるしかない子供達の悲しい現実があり、社会に育てられた子供達はいずれまた社会を育てるとの思いで、私たち皆が手を差し伸べることがより必要と感じています。

とは言いながらも、支援活動にはそれなりの多くの資金も係り、日本に於いてはボランティア団体への寄付援助の個人意識がまだまだ薄く、とても残念な事だと思っております。自分の子供が入院生活を送ったり、身近に恵まれない家庭を目の辺りにしたりしない...やはりです。まずはその様な経験をした方々に、この現実、状況を切実に訴えて広く支援を募るのも支援者を増やすための一手段と思っています。

展覧会

- 東京・世田谷区
11/12(水)～12/25(木)
玉川高島屋S.Cにて
「ホワイトエンジェルプロジェクト」
- 東京・新宿区
11/13(木)～12/25(木)
MUJI新宿 ATELIERにて
- 東京・目黒区
11/1(土)～12/12(金)
東京都写真美術館ロビーにて
映画「War Dance」上映期間中
- 東京・世田谷区
11/22(土)～12月末
東京日産玉川病院にて
- 東京・台東区
1/10(土)～3/8(金)
ギャラリー・アルカンジェリにて
「世界の子どもたち。その喜びと悲しみと」
- 名古屋・中村区
7/1(火)～
豊田通商
本社センチュリー豊田ビルにて
- 東京・千代田区
9/23(祝)～10/27(月)
無印良品有楽町 AELIER MUJIにて
「子供地球基金展」